

# 古墳詳細分布調査概報

3

1993

埼玉県教育委員会

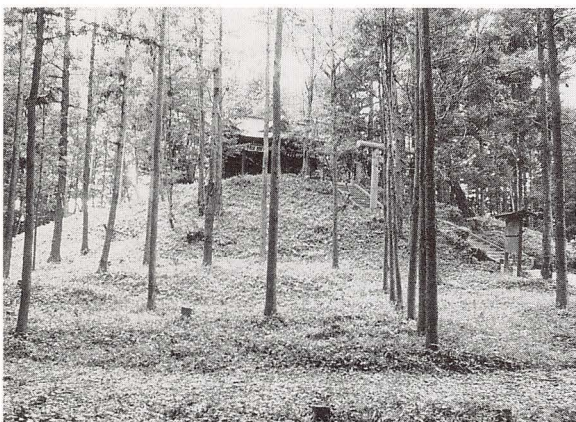




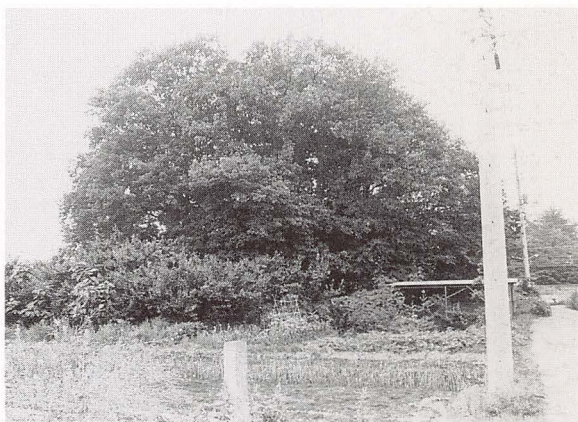
浦和市 白鍬塚山古墳



朝霞市 柵塚古墳



桶川市 熊野神社古墳



熊谷市 三ヶ尻二子山古墳



岡部町 お手長山古墳



大里村 甲山古墳



江南町 No.106古墳(野原古墳群)



寄居町 中小前田1号墳

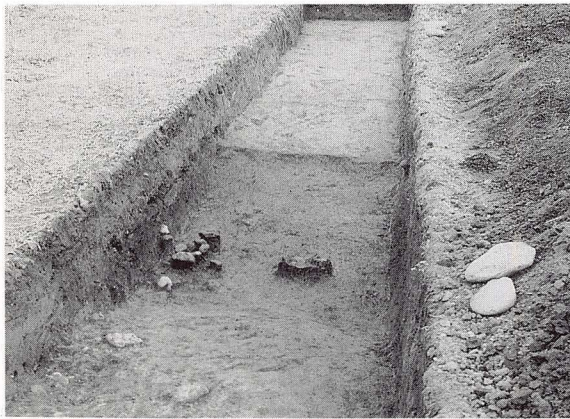




花園町 黒田2号墳 第1トレンチ周堀



花園町 黒田2号墳 第2トレンチ周堀



花園町 黒田2号墳 第3トレンチ土器出土状態



川本町 箱崎4号墳 第1トレンチ周堀



川本町 箱崎4号墳 第2トレンチ周堀



深谷市 木の本10号墳 第1トレンチ周堀



深谷市 木の本10号墳 第2トレンチ北側括れ部



深谷市 木の本10号墳 第4トレンチ南側括れ部



## 例 言

1. 本書は、埼玉県教育委員会が文化庁の国庫補助金の交付を受けて、平成元年度から平成5年度にかけて実施する埼玉県内所在古墳詳細分布調査のうち、平成4年度に行った調査の概報である。
2. 調査の期間は、平成4年4月から平成5年3月までである。
3. 調査主体は埼玉県教育委員会で、実施機関として埼玉県立さきたま資料館が当たった。調査は事務局を、県教育局生涯学習部文化財保護課、埼玉県立さきたま資料館に置き、調査専門委員の指導のもとに、各地区調査員及び関係市町村教育委員会並びに地元地権者、住民の方々の協力を得て実施した。
4. 調査結果の整理、図版の作成、写真撮影は、県立さきたま資料館職員が当たった。
5. 本書の執筆、編集は副館長 小川良祐の指導のもとに県立さきたま資料館学芸課（課長 大友 務、主任学芸員 大和 修・学芸員 利根川章彦・若松良一）が当たった。
6. 調査の対象は古墳であるが、古墳とは断定できないものでも、古墳に類すると考えられるもので、その可能性のあるものについては対象に加えた。

# 目 次

## 例 言

1. 調査の概要	1
2. 調査実施要項	2
(1) 調査対象	2
(2) 全体の計画	2
(3) 平成4年度調査地区	2
(4) 調査方法	2
(5) 調査カード	3
3. 調査の組織	4
4. 概況調査について	5
資 料	6
○大里・北足立郡市の古墳	
○平成4年度古墳詳細分布調査対象地域主要古墳一覧（大里・北足立郡市）	
5. 平成4年度試掘・測量調査について	7
(1) 黒田2号墳（花園町）	7
(2) 箱崎4号墳（川本町）	7
(3) 木の本10号墳（深谷市）	9
6. おわりに	11

## あ と が き

# 1 調査の概要

埼玉県は首都東京に隣接しており、近年開発の波は県北部にまで及び、宅地化と工場進出により、その変貌には目を見張らせるものがある。

埼玉県教育委員会では、これらの開発行為に対処すべく、埋蔵文化財の保護・保存に努めてきており、昭和32年度から昭和40年度にかけて県内の古墳分布調査を実施した。しかしその後、消滅してしまったり、削平された古墳や、開発に伴う発掘調査等によって古墳跡が発見された事からその存在がわかった古墳、そして新たに発見された古墳もあり、近年の各種の開発により遺構の破壊・消滅の恐れが懸念され、従来の資料では十分な対応が困難となった。

そこで、古墳の基礎資料を充実させるとともに、今後の開発行為等との調整を図るため、国の文化財保存事業費補助金を得て、平成元年度から5か年計画で、県下の古墳の所在確認のための調査を開始した。

初年度から4年間は、県下全域の調査と関連資料調査を行うこととし、埼玉県埋蔵文化財包蔵地カードから古墳を抜き出し、リストを作成した。調査カードは包蔵地カードをもとにして、古墳群調査カード、古墳調査カード、補助カードを作成した。

平成4年度は、大里・北足立郡市を対象とした。調査は、平成元年度～3年度と同様、調査専門委員の先生方の指導、助言を得ながら、18人の地区調査員と事務局で実施した。

地区調査員の方々には、担当地区の遺跡台帳やリストをもとに、現地踏査を実施し、現況写真・地図等の資料を貼付した古墳カードの作成をお願いし、古墳の位置を記入した地図と共に、提出していただいた。

概況調査は、6月から7月にかけて、関係市町村教育委員会の協力のもとに、事務局職員と地区調査員で現地踏査を実施した。この結果に基づいて、10月から翌年1月にかけて詳細調査を行った。

詳細調査は試掘・測量調査を行った。調査対象古墳として、大里・北足立郡市の計3か所を選定した。調査は、墳形の確認のための平板測量と、周堀と墳裾等、範囲確認のために、数本のトレンチを設定した試掘調査を実施した。調査に当たり、限られた調査の中で最大の成果を得るよう、留意した。

関連調査として、県内の古墳に関係する文献資料や、地図・図面類の収集や昨年度までの捕足調査を行った。

## 2 調査実施要項

### (1) 調査対象

埼玉県所在の古墳、あるいは消滅したと推定される古墳、及び新たに発見された古墳跡等の他、関連遺構も対象とする。

### (2) 全体の計画

年 度	調 査 地 区	関連資料調査
平成元年度	入間・比企郡市（24市町村）	全 県
平成2年度	秩父・児玉郡市（16市町村）	
平成3年度	北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市（25市町村）	
平成4年度	北足立・大里郡市（27市町村）	
平成5年度	全県補足調査及び調査報告書の作成	

### (3) 平成4年度調査地区

現 地 調 査	北足立郡市	浦和市 川口市 与野市 草加市 蕨市 戸田市 鳩ヶ谷市 朝霞市 志木市 新座市 和光市 大宮市 鴻巣市 上尾市 桶川市 北本市 吹上町 伊奈町
	大里郡市	熊谷市 深谷市 妻沼町 寄居町 岡部町 川本町 花園町 江南町 大里村
関連資料調査	全	県

### (4) 調査方法

#### ア 事務局の調査員の調査

##### ○概況調査

埼玉県埋蔵文化財包蔵地調査カードに記載された古墳を抜き出し、リストを作成し、それに基づいて現状調査を進める。

##### ○詳細調査

概況調査に基づき、現状の墳形確認のために平板による測量調査を実施し、さらに遺構の遺存状況等を試掘調査で確かめる。

##### ○関連資料調査

古墳に関する報告書等の文献、及び発掘調査等で知られる遺構・遺物に関する資料の収集・整理。

#### イ 地区調査員の調査

担当地区の古墳について現地調査し、現況の写真撮影を行い、調査カードと古墳分布図を作成する。



(5) 調査カード

埼玉県所在古墳群調査カード

県 番 号		名称			埼玉県所在古墳群調査カード		
市町村番号					所在地 郡 市町村		
整理番号		指定	国	県	市町村	重要遺跡	
墳 形	円墳	基	方墳	基	備考		
	前方後円墳	基					
立 地	その他( )		基				
	計		基				
調 査 歴		調 査 古 墳					
年 月 日～ 年 月 日							
年 月 日～ 年 月 日							
年 月 日～ 年 月 日							
年 月 日～ 年 月 日							
年 月 日～ 年 月 日							
調 査 者		調 査 年 月 日			年 月 日～ 年 月 日		

埼玉県立さきたま資料館

埼玉県所在古墳調査カード

県 番 号		名称			埼玉県所在古墳調査カード		
市町村番号					所在地 郡 市町村		
整理番号		指定	国	県	市町村	重要遺跡	
地 目	山林 原野 畑 田 宅地	その他( )					
立 地	山地 丘陵 台地 自然堤防 低地						
墳 形	円墳 方墳 前方後円墳	その他( )					
規 模	全長(直径・辺長)	高				備考	
外 部 施 設	埴 輪	有・無・不明	葺 石	有・無・不明			
周 堀	有・無・不明( )						
埋 葬 施 設	横穴式石室・竪穴式石室・粘土槨・箱式石棺 その他( )						
出 土 遺 物	保管場所						
文 献					調査歴		
					測量図	有 無	縮 尺
調 査 者		調 査 年 月 日			年 月 日～ 年 月 日		

埼玉県立さきたま資料館



### 3 調査の組織

#### 事業主体者

埼玉県教育委員会 教育長 竹内克好

#### 実施機関

埼玉県立さきたま資料館 生涯学習部参事兼館長 大村進

#### 調査専門委員

埼玉県文化財保護審議会委員 柳田敏司  
 埼玉県文化財保護審議会委員 小林茂  
 埼玉考古学会副会長 金井塚良一

#### 地区調査員

小倉均 (浦和市・蕨市)	金箱文夫 (川口市・草加市・戸田市・鳩ヶ谷市)
秦野昌明 (与野市)	肥沼正和 (朝霞市・志木市・新座市・和光市)
澤柳秀実 (大宮市・伊奈町)	山崎武 (鴻巣市)
小宮山克己 (上尾市)	関根訪 (桶川市)
磯野治司 (北本市・吹上町)	金子正之 (熊谷市)
青木克尚 (深谷市)	荒川弘 (妻沼町)
石塚三夫 (寄居町)	平田重之 (岡部町)
村松篤 (川本町)	森下昌市郎 (花園町)
新井端 (江南町)	富沢一明 (大里村)

#### 調査員

埼玉県立さきたま資料館

専門調査員兼学芸課長	大友務
主任学芸員	大和修
学芸員	利根川章彦
学芸員	若松良一
学芸員	田中裕子

#### 事務局

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課

課長	早川智明
主幹兼課長補佐	吉川國男
主幹兼課長補佐	柴崎光生
埋蔵文化財係長	高橋一夫
主査	水村孝行
庶務係長	高田弘義
主任	伊勢弘明
主事	秋庭喜代美

埼玉県立さきたま資料館

生涯学習部参事兼館長	大村進
副館長	小川良祐
庶務課長	小林栄一
主任	高野幸子
主事	加藤健次

#### 協力機関等

浦和市教育委員会	川口市教育委員会	与野市教育委員会	草加市教育委員会
蕨市教育委員会	戸田市教育委員会	鳩ヶ谷市教育委員会	朝霞市教育委員会
志木市教育委員会	新座市教育委員会	和光市教育委員会	大宮市教育委員会
鴻巣市教育委員会	上尾市教育委員会	桶川市教育委員会	北本市教育委員会
吹上町教育委員会	伊奈町教育委員会	熊谷市教育委員会	深谷市教育委員会
妻沼町教育委員会	寄居町教育委員会	岡部町教育委員会	川本町教育委員会
花園町教育委員会	江南町教育委員会	大里村教育委員会	
関係土地所有者各位	地元関係者各位		

## 4 概況調査について

平成4年度の調査対象地域は、北足立・大里郡市である。埼玉県北部の北比企丘陵・櫛挽台地・江南台地、埼玉県南部の大宮台地とその周辺の低地帯および武蔵野台地の北縁部が該当する。

北足立郡域の北部は全面積の半分以上が大宮台地上にあり、荒川・元荒川に注ぐ中小河川によって開析された小支谷に面する区域に、縄文時代以降の遺跡が集中する。また、南部は大宮・浦和・川口市域に入り組んだ崖線があり、その周辺の低地帯にも旧入間川の自然堤防が形成されている。遺跡は南向きの台地斜面や自然堤防上に立地する傾向がある。特に、鴻巣市の荒川に面する区域、桶川市の江川流域、大宮市から浦和市にかけての鴨川流域などに、集中的に古墳が分布する。

首都に近い北足立郡域は古墳の消滅が戦前やそれ以前に遡る地区が多く、伝承や出土遺物などのデータのみのもを加えても20基にも満たない地域があり、これらの地区には現在確認されている古墳時代の遺跡も少ない傾向にある。江川の荒川との合流地点付近にある桶川市熊野神社古墳は碧玉製品を大量に副葬する有力な前期古墳である。昭和59年度の周堀の調査によって直径約3.8mの円墳であって、幅3mの張り出し部をもつことが判明し、壺・小型埴・小型器台などの赤彩土器が出土している。副葬品と土器の検討から4世紀後葉の築造とされている。さらに荒川沿いの下流域には5世紀前半と考えられる上尾市殿山古墳もある。これらは発掘調査によって実態が明らかになった一例である。後期古墳としては鴻巣市街地の住宅建設等で確認された生田塚古墳群・新屋敷古墳群が現在も断続的に調査されているが、割合分布密度の濃い古墳群である。

大里郡域は荒川中流域の南北両岸地帯であり、地形的には北の櫛挽台地と南の比企丘陵に大きく分かれる。遺跡は主としてこれらの丘陵・台地上、荒川兩岸の河岸段丘上に分布する。古墳の分布も櫛挽台地の北縁部、荒川兩岸付近、比企丘陵内にそれぞれ特徴的な分布状況を示す。荒川兩岸の段丘上には総数100を越えていたのではないと思われる大規模な後期古墳群が3ヵ所あり、中小の古墳群も多い。大型古墳は甲山古墳・とうかん山古墳などのように大里村域に集中していたようで、寄居・川本・花園・深谷・江南の各市町村にはこれに匹敵するものは見当たらない。なお、大里村阿諏訪野地区・深谷市上増田地区にはかなり古い段階で削平された古墳群が発掘調査で発見されている。また、JR籠原駅付近の市街化に伴って調査された籠原裏遺跡においては、埼玉県で初めて八角形墳の存在が明らかになった。

昭和40～50年代には荒川兩岸地域の圃場整備事業や道路建設・住宅建設などの開発が行なわれ、熊谷市中条古墳群、三ヶ尻古墳群、川本町鹿島古墳群、花園町黒田古墳群、寄居町小前田古墳群などではその事前調査で古墳群の実態について多くのデータを得ている。

なお、昭和30～39年度に埼玉県教育委員会が実施した古墳調査においては、昭和33年度に大里地区、38年度に北足立地区の調査が行なわれ、大里郡は594基、北足立郡121基の古墳が確認された。今回の調査においては、発掘調査で確認された古墳跡を含めて、現時点では大里郡833基、北足立郡295基を確認することができた。ただし、前回の調査で確認された古墳でも山林の放棄等により再確認が不可能なものもあった。



資 料

北足立・大里郡市の古墳

北足立郡市	古墳数	北足立郡市	古墳数	大里郡市	古墳数
浦和市	40	新座市	0	熊谷市	134
川口市	10	和光市	10	深谷市	24
与野市	9	大宮市	38	妻沼町	10
草加市	2	鴻巣市	69	寄居町	77
蕨市	1	上尾市	5	岡部町	100
戸田市	3	桶川市	67	川本町	158
鳩ヶ谷市	1	北本市	17	花園町	85
朝霞市	11	吹上町	10	江南町	204
志木市	2	伊奈町	0	大里村	41
合		計	295	合	計 833

平成4年度 古墳詳細分布調査対象地域主要古墳一覧（北足立・大里郡市）

郡	市町村	主 要 古 墳 (群) 名	試掘・測量調査
北足立郡市	浦和市	白幡古墳群、中島古墳群、白鍬古墳群、大久保古墳群	
	川口市	新郷古墳群〔高稲荷古墳（消滅）〕	
	与野市	円阿弥古墳、苗塚古墳	
	草加市	御殿稲荷古墳（消滅）	
	蕨市	塚越神社古墳	
	戸田市	南原古墳群	
	鳩ヶ谷市	仙元祠古墳（消滅）	
	朝霞市	根岸古墳群〔柊塚古墳〕、内間木古墳群〔峡山古墳〕	
	志木市	塚の山古墳、「田子山富士」	
	和光市	吹上横穴墓群	
	大宮市	側ヶ谷戸古墳群、植水古墳群、三橋稲荷塚古墳	
	鴻巣市	馬室古墳群、箕田古墳群、安養寺古墳群、生出塚古墳群	
	上尾市	殿山古墳、江川山古墳（消滅）	
	桶川市	熊野神社古墳、原山古墳群、西台古墳群、城髪山古墳群	
大里郡市	北本市	八重塚古墳群、中井古墳群、北袋古墳群	
	吹上町	三島神社古墳、愛宕神社古墳、宝養寺古墳、天神山古墳	
	熊谷市	三ヶ尻古墳群、中条古墳群、肥塚古墳群、瀬戸山古墳群	
	深谷市	木の本古墳群、山王社裏古墳	木の本10号墳
	妻沼町	摩多利神社古墳、間々田稲荷神社古墳、王子古墳、鶴森・入胎遺跡	
	寄居町	中小前田古墳群、上郷古墳群、赤浜古墳群、藤田古墳群、樋ノ下遺跡	
	岡部町	四十坂古墳群、西山古墳群、山崎古墳群、本郷古墳群	
	川本町	鹿島古墳群、塚原古墳群、箱崎古墳群、平方前古墳群、見目古墳群	箱崎4号墳
	花園町	小前田古墳群、黒田古墳群、飯塚古墳群	黒田2号墳
	江南町	塩古墳群、野原古墳群、小江川古墳群	
大里村	阿諏訪野古墳群、甲山古墳、とうかん山古墳、円山古墳群		

## 5 平成4年度試掘・測量調査について

### (1) 黒田2号墳

**所在地** 大里郡花園町黒田字上川端1898～1907

**立地** 黒田古墳群は荒川中流域左岸の段丘面に所在する。東西約800m、南北約300mの範囲にあり、消滅したものを含めて総数22基が確認されている。2号墳は古墳群中の最西端部にあり、昭和49年に県営ほ場整備事業に伴い調査された1号墳・3号墳の中間の位置に現存している。

**現況** 前方部が西南西方向に伸びる帆立貝式古墳とされているが、前方部にあたる墳丘西南部は大きく土取りされ、高さ1m以下のわずかな高まりが残っているだけである。後円部の東側も直線的に変形しており、新しい石垣が築かれている。ただし、後円部の大部分は良く保存されている。

**調査の概要** 現存する墳丘の大きさは全長約33m、後円部径約28m、高さ4.2mである。昭和62年度に県内主要古墳調査の一環として県立さきたま資料館が測量調査を実施しているため、測量調査は省略した。

試掘調査は、墳丘の全長の確認のために東西の主軸方向に第1・3トレンチ、後円部径の確定・括れ部位置確認・前方部の開きの方向の確認のために、墳丘南側に第2・4・5トレンチを設定して実施した。

後円部東側の第1トレンチでは幅3.9m、深さ0.5mの周堀を検出した。前方部西側の第3トレンチでは幅2.3m、深さ0.3mの周堀を検出した。この2本のトレンチからは円筒埴輪片・形象埴輪片がわずかに出土したほか、追葬時以降に置かれたと思われる7世紀後半の土師器坏形土器が第3トレンチ周堀底部付近から出土した。これらのトレンチから古墳の全長は約41mであることが確認された。

第2トレンチでは幅5.4m、深さ0.5mの周堀を検出し、後円部径が約30mであることが確認された。

第4トレンチは南の括れ部付近に設定した。周堀の幅が大きく広がり、幅7.6m、深さ0.5mである。人物埴輪頭部・胴部、馬形埴輪片を含む多量の円筒埴輪片が墳丘寄りの位置から出土した。墳丘から葺石とともに転落したと思われる。

第5トレンチでは、幅2.75～4.9m、深さ0.3mの周堀を確認した。第3・4・5トレンチの周堀の方向から、推定幅29m、長さ13mの前方部が考えられ、帆立貝式古墳が想定できる。なお、出土した埴輪・須恵器の年代は6世紀末頃と考えられる。

### (2) 箱崎4号墳

**所在地** 大里郡川本町畠山字株木270～272

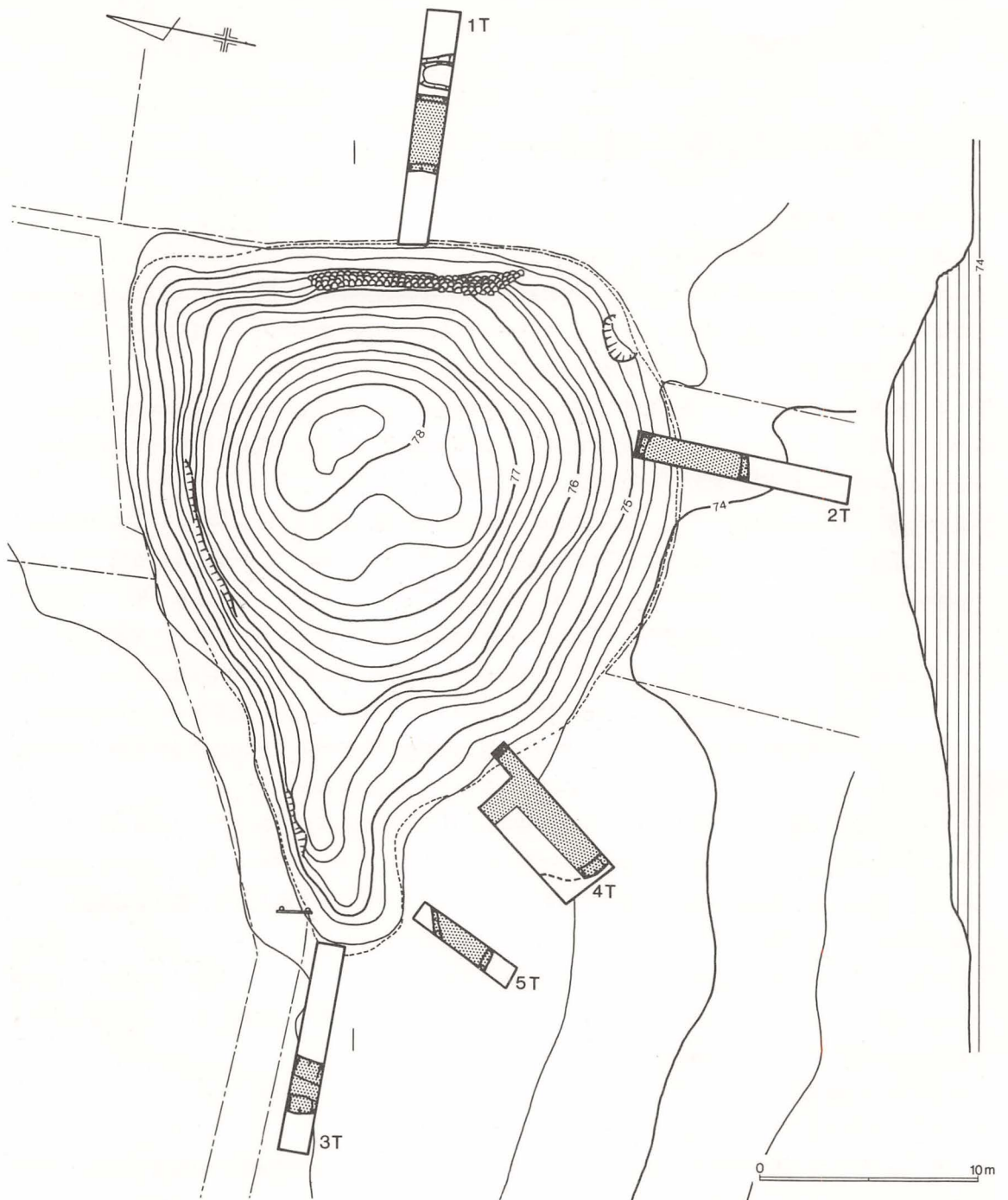
**立地** 箱崎古墳群は荒川中流域右岸の段丘面に所在し、東西約800m、南北約250mの範囲に32基の古墳の分布が確認されている。4号墳は古墳群の東部にあり、周囲に3～4基の古墳の分布が認められる。

**現況** 墳丘は土壘状に大きく変形しているが、西側に細長く伸びているので、前方後円墳状を呈する。墳丘外表部には多量の河原石が置かれているが、ほとんど二次的に積まれた状態であった。

**調査の概要** 試掘調査は、推定後円部中心点の対角線方向に、南に第1トレンチ、北に第2トレンチ、前方部の形態確認のために推定前方部の南に第3トレンチ、北に第5トレンチ、西に第6トレンチ、さらに後円部径の確定のために後円部の南に第4トレンチ、東に第7トレンチを設定した。第1トレンチでは幅3.5m、深さ0.5mの周堀を検出した。第2トレンチでは幅3.4m、深さ0.8mの周堀風の落ち込みが確認されたが、上に厚い二次堆積礫層が乗るため周堀ではないかもしれない。

推定前方部の周辺では、第3・6トレンチで周堀が検出されず、北側の第5トレンチのみ深さ約0.4mの周



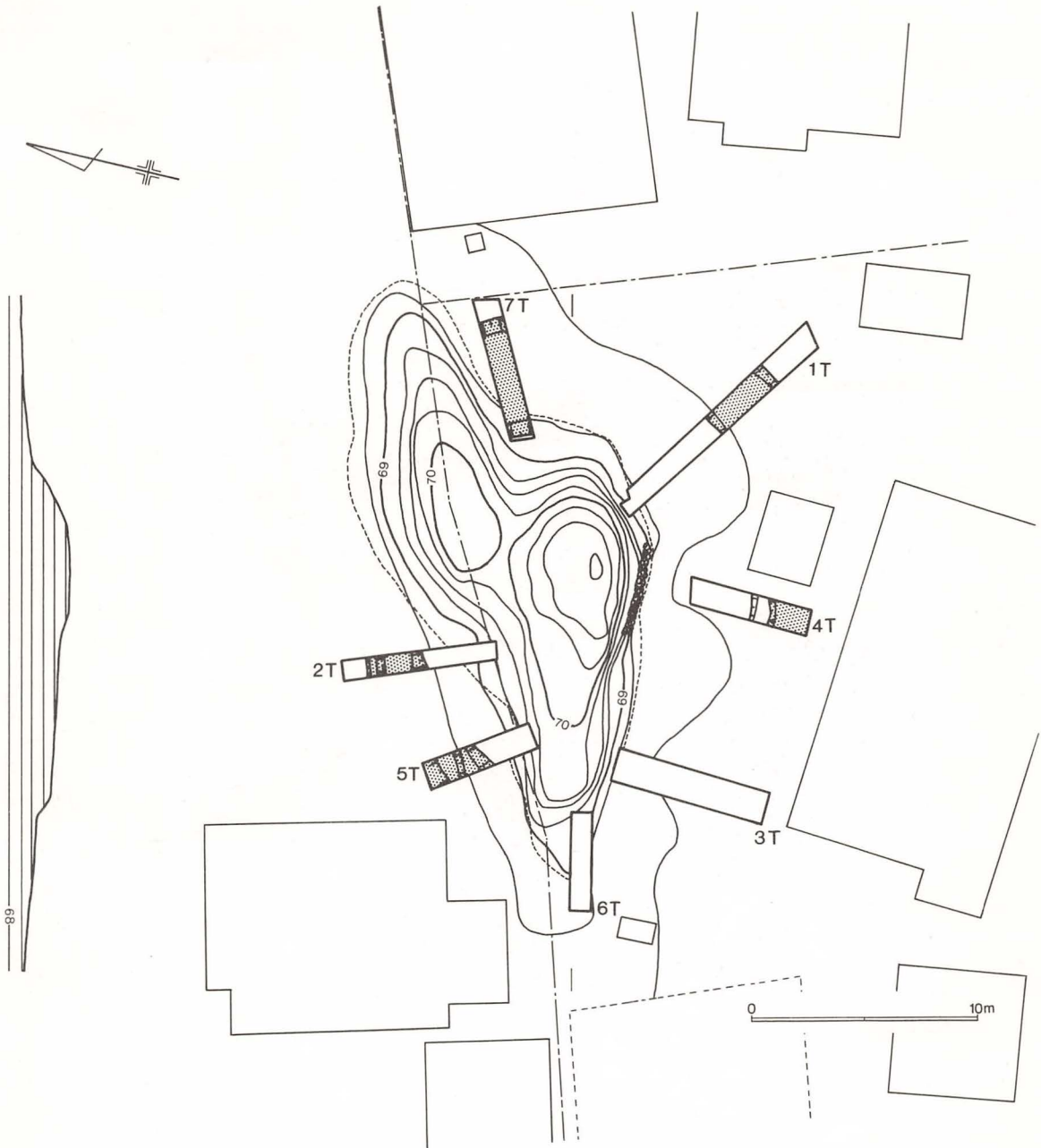


第1図 花園町黒田2号墳測量図

掘を検出した。周堀は前方部の伸びる方向より南側に向かって余計に回り込んでいくように伸びていた。第5・6トレンチではやや大きく墳丘を断ち割って見たが、推定前方部と見られていた部分のほとんどが二次的に積まれた礫の堆積と、それを被覆した表土であることが判明した。

第4トレンチでは深さ0.2mの周堀を検出したが、外側の立ち上がりが家屋の下に伸びているため、幅は未確認である。第7トレンチでは内側の立ち上がりが不明瞭であるが、幅5.0m、深さ0.3mの周堀を検出した。第1・2・4・7トレンチの周堀確認位置から径17~18mの円墳に復原できる。ただし、西部から西南部にかけてはブリッジが想定され、径は東西にやや長くなる可能性がある。

埴輪片等の出土品の年代は6世紀末~7世紀初頭頃と考えられる。



第2図 川本町箱崎4号墳測量図

(3) 木の本10号墳

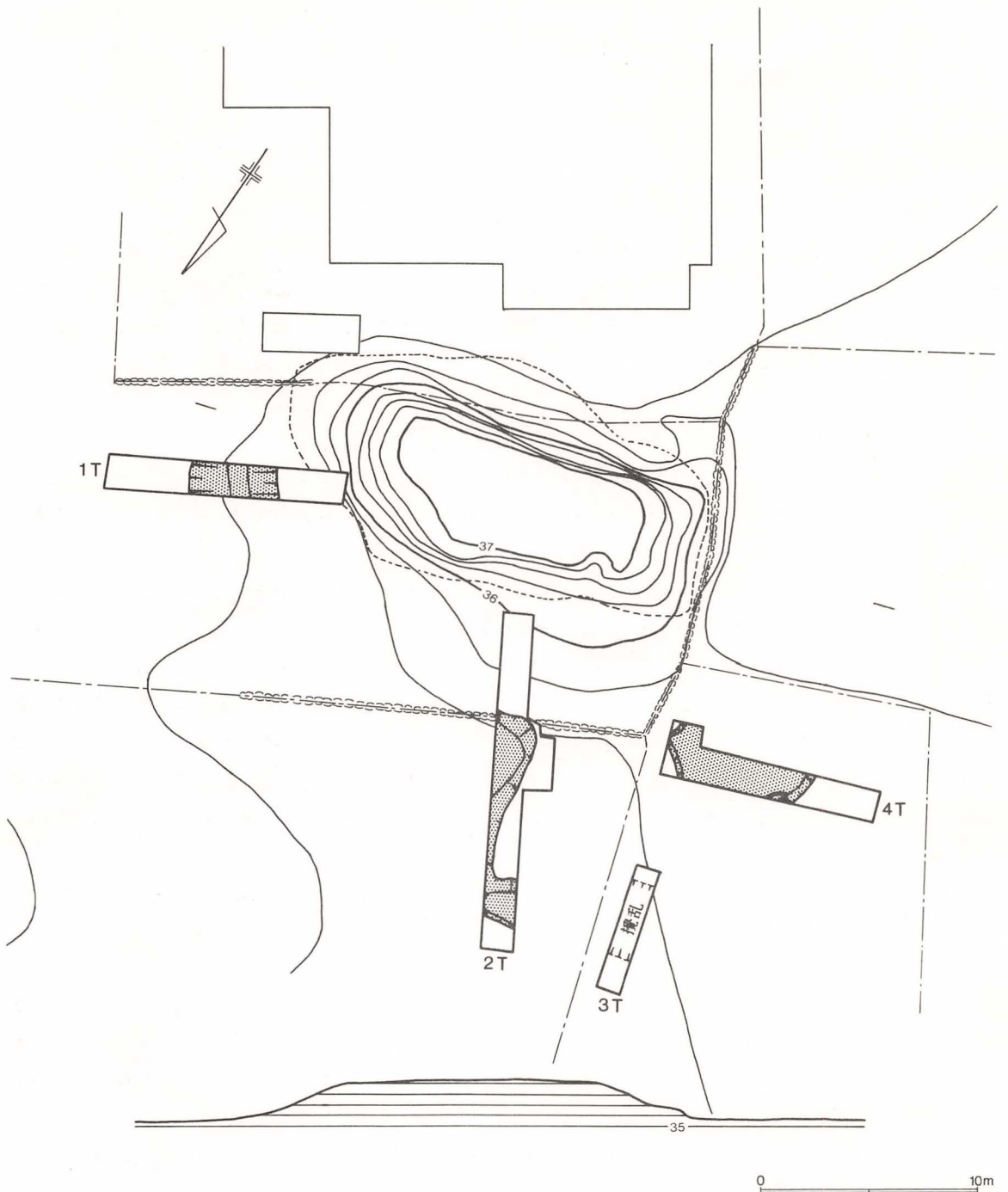
所在地 深谷市原郷1258-1

立地 木の本古墳群は、櫛挽台地東縁部の福川右岸の台地上にあり、東西3000m、南北300mの範囲に12基の古墳が現存している。多くは開墾等によって破壊されており、かつては30~40基ほどはあったものと考えられる。10号墳は群の西部にあり、現福川に面する台地北側斜面を登り切った平坦面に立地している。

現況 民家と墓地の裏側に所在する10号墳は、現況では円墳状を呈し、垣根で囲まれている。東側は民家の垣根によって切られ、半円形に残っているが、西側の畑地には埴輪片がかなり多く散布するので、前方後円墳の可能性もあることが予想された。

調査の概要 試掘・測量調査は、現存する墳丘の東側の宅地内と南側の墓地部分にトレンチを設定するのがほとんど不可能であるため、北側に第1トレンチ、西側に第2トレンチ、西南方向に第3・4トレンチを設定した。





第3図 深谷市木の本10号墳測量図

第1トレンチでは、幅4.4m、深さ0.6mの周堀を検出した。第2トレンチでは括れ部と前方部左隅角部分及び前方部前面の周堀が検出された。括れ部部分は周堀の外側立ち上がりは確認できなかったため幅は不明であるが、深さは0.7mであった。第3トレンチは前方部前面の周堀の続き、第4トレンチは南側の括れ部の確認が想定される位置に設定したが、第3トレンチは後世の攪乱が激しく、周堀は破壊されていた。第4トレンチでは、幅5.3m、深さ0.9mの周堀と南側括れ部を確認することができた。

第1・2・4トレンチで確認された周堀の位置から、全長約41m、後円部径約34m、前方部幅約10~12m、前方部長約7mの帆立貝式古墳あるいは造出し付き円墳となることが推定された。

なお、第2・4トレンチからは女子人物埴輪頭部・馬形埴輪片・靱形埴輪片などを含むかなり多量の円筒埴輪片が出土した。これらの遺物の年代は6世紀中葉~後葉頃と考えられる。

## 6 おわりに

古墳詳細分布調査は、県内の古墳の所在確認調査と主要古墳の範囲確認を目的として、平成元年度から5ヵ年計画で開始した。平成元年度は入間・比企郡市、2年度は秩父・児玉郡市を対象として調査を実施し、その概要は「古墳詳細分布調査概報1」にまとめた。平成3年度は北埼玉・南埼玉・北葛飾郡市を対象に調査を実施し、「古墳詳細分布調査概報2」にまとめた。平成4年度は大里・北足立郡市を対象として調査を実施し、計1128基を確認した。

今年度の調査で若干気がついた点に触れてみたい。

今年度の調査対象地域は、荒川中流の河岸段丘上と丘陵上に古墳の群集する大里郡市と荒川中下流域の台地上に小古墳群の点在する北足立郡市である。地区調査員は、市町村で埋蔵文化財を担当される専門の方々を中心にお願いし、専門委員の指導を受けた。

特に、大里郡市は、岡部町・江南町などの丘陵上に群集する古墳が多く、平成2年度の児玉郡市に次いで踏査の困難なことが予想された。近年、丘陵地帯は山林となっており、荒廃するに任せているところが多く、事務局の現地踏査でも、地区調査員の方々の御案内なしではとてもその存在すらわからないほどのひどい藪の中に古墳があり、昭和33年に実施された古墳調査の折りに所在調査をした古墳を確認するだけでも大変な事であった。また、河岸段丘上の古墳群は、既に昭和40年代に行なわれたほ場整備事業によって、多くは緊急調査の後に削平あるいは消滅してしまったものが多い。これらも含めて昭和33年の古墳調査カードや消滅前の航空写真から復原作業を行ない、地元の方に確認するといった作業が伴い、調査員の方々の努力に負う所が大であった。

県指定史跡である川本町鹿島古墳群と江南町塩古墳群では保存整備を行ない、文化財保護の啓蒙・普及に役立てるという気運が高まりつつある。また、周辺市町村でも個々の古墳について整備を行ない、史跡として活用したいという希望が出ている。

北足立郡市は、大宮台地上の鴻巣市・吹上町・大宮市・浦和市周辺に古墳が多い。県南地域の例にもれず、宅地化が進み、再開発に伴う古墳跡の調査例が多く、浦和市白楯塚山古墳は5世紀に遡ることが判明し、本柰古墳のように学術調査によってその実態の明らかになったものなどもある。また、朝霞市柘塚古墳等のように保存整備の動きが出ている所もある。

詳細調査は今後の保存に役立てる、あるいは文化財保護思想の啓蒙という意味から地元の教育委員会と相談し、3ヵ所を選定し試掘・測量調査を実施した。対象古墳は、花園町黒田古墳群の盟主的存在で、保存の良い帆立貝式古墳の黒田2号墳、川本町箱崎古墳群ではその多くが現在の集落内にあり、なかでも形状の不明な4号墳を、深谷市では30mクラスの古墳が含まれ、現存するものとしては比較的保存が良く、その実態の不明な木の本古墳群中の10号墳を選定した。短期間の調査でもあり、限られた調査としてはそれなりの成果を挙げられたと思う。関係市町村の方々の並々ならぬ御協力に対し感謝します。また、他にいくつかの市町村からも試掘のお誘いを受けたが、残念ながら割愛せざるをえなかった点をご容赦いただきたい。

平成5年度は報告書を刊行する予定である。また、補足調査等々、今までお世話になった調査員の方々にも更なる御協力をお願いしたい。



## あ と が き

県教育委員会では、県内に分布して歴史や文化に対する豊かな学術情報を内蔵し、かつ地理的にも開発の好対象とされる所に多数存在する古墳について、開発による消滅の危機から保護するため、平成元年度から5か年計画で「埼玉県内所在古墳詳細分布調査」を実施してきました。この調査の重要性については改めて繰り返すまでもありませんが、貴重な文化財の保護のために、開発側との調整に際し、客観的な基礎資料や情報を提供することにあります。とりわけ古墳は、城館址などと並んで、土地に関わる文化財で、かつかなりの広さを占めるものであります。従って古墳の資料は、県民生活を豊かにする県土開発への要求と、県民の心の拠り所となる歴史や文化の遺跡保存の願望との間にあって、調和を求める調整には不可欠なものであります。

この調査は、古墳の専門家を調査専門委員にお願いし、その方々の指導助言を得ながら県内を計画的に分割し、それぞれ該当地域の市町村教育委員会や地区調査員のご協力を得て、県教育局生涯学習部文化財保護課と当館が事務局となって実施してきました。

調査の内容は、古墳や古墳址、古墳群の所在や分布、その保存状況等を概括的に把握する概況調査と、特に保護措置上注目される何基かの古墳について範囲確認の試掘調査や測量図の作成を行う詳細調査、それに文献資料等を含めた関連資料調査の3つから成っており、今まで多くの成果を挙げてまいりました。

本書は、平成4年度（第4年次）において実施した北足立・大里郡市の調査概況報告書であります。北足立郡市は、県の地域別構想において県南中央地域と位置づけられ、西は荒川（往古の入間川）、東は元荒川・綾瀬川をほぼ境とし、北は調査地域の県北地域、南は東京都に接し、大部分が厚いローム層におおわれた大宮台地で占められ、その周囲には沖積低地が存在しています。台地には古くから住居適地として多数の遺跡が存在していましたが、江戸や首都東京に隣接するため都市が連なり、人口集中や交通網の四通八達により遺跡の保存状態は良好ではありません。それだけに今まで残されてきた古墳は保護していく必要の高い地域といえましょう。

これに対し大里郡は、県北地域に属し、西が丘陵地・台地、東は沖積層の平坦地からなり、台地が主要部分を占め、荒川が流下しています。北は児玉郡を介して上州に近接しているため上野文化の影響を受けています。また律令制に基づく郡郷の発達も著しく、その前段階としての古墳も豊かであります。こうした南北で対極的な地域の調査でありましたが、今回の調査では北足立郡295基、大里郡833基を確認いたしました。

詳細調査については、花園町の黒田2号墳、川本町の箱崎4号墳、深谷市の木の本10号墳の3か所について行いました。その成果の一部は本書に紹介しておきました。なお、この事業は来年度をもって最終年次とし、一部補助調査を含め今までの調査結果をまとめて報告書として刊行する計画です。従って調査終了地域であっても、その後の開発等により新しい情報が見出されましたなら、お知らせいただければ幸いと存じます。文化財保護行政資料としてはもとよりですが、学術資料としても価値あるものになりたいと考えております。

終わりに、この調査に当り、ご高配を賜った地主各位や発掘調査に参加された方々、並びに種々ご指導、ご協力くださった調査専門委員・地区調査員・文化庁・関係市町村教育委員会に対し、厚く感謝申し上げます。

平成5年2月15日

埼玉県教育局生涯学習部参事

兼埼玉県立さきたま資料館長

大 村 進

古墳詳細分布調査概報

3

平成5年3月15日

発行 埼玉県教育委員会  
編集 埼玉県立さきたま資料館  
印刷 関印刷株式会社